

童話新聞『ともだち』の解題と細目

谷 暎 子

目次

一、解題

はじめに

一、『ともだち』についての記録

二、発行状況

三、編集者

四、発行の意図

五、内容の構成

六、童話会の開催

七、家庭宗教雑誌『ともだち』

むすび

二、細目

一、解題

はじめに

童話新聞『ともだち』は、一九四六年（昭和21）二月一日に札幌で創刊された。敗戦から半年後のことである。六ヶ月間の短い期間であったが、北海道内で戦後最も早く出された児童向け定期刊行物である。二ヵ月後の四月には、児童芸雑誌『北の子供』、童話雑誌『おはなし』、『ひばり』の三誌が、続いて五月には科学新聞『子供の国』が創刊された。（注1）

一九四六～一九四九年頃までの札幌は、空前の出版ブームに湧いたという。東京の出版社が札幌に支社や出張所を設けたこと、刺激を受

けた地元の人達による小さな出版社が相次いで誕生した。言論・出版の自由が回復したこともあるが、物的条件―北海道には紙があり、戦火を免れ操業可能な印刷所があったことも大きな要因であった。一九四五年七月には十指に満たなかった出版社が、一九四七年には百七社を数える勢いであった。この間、文学書ばかりでなくさまざまな分野の出版物が出された。児童向けにも新聞、雑誌、絵本、童話、紙芝居等幅広いジャンルにわたって相当数出版されている。

北海道でこれだけ多くの児童出版物が出されたことは、この期を除いて他にない。短期間で特殊な状況下とはいえ、戦後児童文化史にとって大きな意味を持つ。しかし、残念なことにこの期の児童出版物についての全容は、まだ解明されていない。児童出版物は大人のそれと異なり、子どもの成長とともに処分されることが多く、図書館等にも収集・保存されてこなかったこともあって、出版物の探索・調査は極めて困難な作業である。特に、子どもの新聞は保存されることが少なく、加えて紙の劣化が進んでいて調査は急を要する。筆者は、数年前からこの期の児童出版物の探索・調査を続け、これまでに児童文芸雑誌『北の子供』の細目と解題等(注2)を行ってきた。本稿では童話新聞『ともだち』の細目を作成し、書誌的な事項に留意しながら解題を試みたい。

一、『ともだち』についての記録

次の二つの文献から、『ともだち』の発行を知り探索をはじめた。

1 『北海道出版物総合目録』(日本出版協会北海道支部・一九四七年五月)

この目録は、札幌で開催された北海道出版文化祭(一九四七年五月末―六月上旬)の記念出版物の一つである。日本出版協会北海道支部が編んだもので、「書籍目録」、「雑誌目録」、「出版社一覧」などからなる。同協会北海道地区会員の出版物に限られてはいるが、戦後間もなくの道内出版物を探索する手がかりを得ることができる。『ともだち』は、「雑誌目録」の「児童」の項に、次のように記載されている。

誌名	回数	判型	頁数	定価	編集者	発行所
ともだち	週刊	B5	四	三・五〇	横田初吉	ともだち社

2 『北海道年鑑』—昭和二十二年版（北海道新聞社）

「出版」の項には、「本道で出版される主なる雑誌」の「農漁村文化関係」のなかに、前述の「おはなし」、「ひばり」、「北の子供」等と一緒に「ともだち」の誌名が記載されている。

「ともだち」の頁数や発行回数から新聞であることを推測はできるが、どちらの文献にも「雑誌」の項に記載されている。原資料の確認の過程で思いがけない発見があった。これについては後述する。

二、発行状況

『ともだち』創刊は一九四六年二月一日で、九月二十六日・第三十八号で終刊となっている。『北海道出版物総合目録』には週刊となっていたが、実際には月六回で一と六のつく日に発行されていた。確認することのできた三十七部の発行状況は表1の通りである。

表1

号数	発行年月日	頁	価格
1	1946・2/ 1	2	1円50銭
2	<S21> 6	"	<1カ月>
3	11	"	"
4	" 16	"	"
5	21	"	"
6	26	"	"
7	3/ 1	2	"
8	6	"	"
9	11	"	"
10	" 16	"	"
11	21	"	"
12	26	"	"
13	4/ 1	2	"
14	6	"	"
15	11	"	"
16	" 16	"	"
17	21	"	"
18	26	"	"
19	5/ 1	2	"
20	6	"	"
21	11	"	"
22	" 16	"	"
23	21	"	"
24	26	"	"
25	6/ 1	2	"
26	6	"	"
27	11	"	"
28	" 16	"	"
29	21	"	"
30	26	"	"
31	7/ 1	?	"
(32)	" 8/ 1	16	"
33	9/ 1	4	2円10銭
34	6	"	<1カ月>
35	11	"	"
36	" 16	"	"
37	21	"	"
38	26	"	"

* 31号はプランゲ文庫所蔵

発行状況 創刊から六月までは、計画通り月六回発行されている。七月、八月は一日発行が一回のみで、八月は号数が記入されていない。九月になって従来通り六回の発行に戻ったが、九月二十六日・三十八号で終刊となっている。

プランゲ文庫(注3)に、七月一日発行・第三十一号が所蔵されていることがわかった。しかし、かつて『ともだち』を編集していた方達の記憶では、八月一日発行の号は、七・八月合併号で第三十一、三十二号だという。プランゲ文庫のあるマッケルデン図書館は改築に伴う移転で、現在休館中なので詳細は照合はできない。今後、確認の作業を続けたい。判型、頁数は第一号から第三十号まではタブロイド判(八段組)二頁、八月一日号からB五判(四段組)に変わる。頁数は第三十三号から三十八号まで四頁、八月一日号のみ十六頁となっている。

発行人 ともだち社の発行で、事務所は札幌市南一条西九丁目の横田印刷所にあった。新聞の題字下には「編集兼発行印刷人・横田初吉」とある。横田初吉は横田印刷所の経営者で、当時は十人前後の職工がいて活版印刷を行っていたという。ともだち社は、『ともだち』新聞の発行を機会に設立されたようだ。日本出版協会北海道地区会員で『北海道出版物総合目録』の「出版社一覧」には、「ともだち社代表・横田初吉」「出版部門・児童」「発行雑誌・ともだち、ゆりかご」とある。

発行部数 部数が記録されている当時の資料はない。編集に携わっていた方達の記憶によると、創刊時の目標は二千部だったようだ。横田の採算点を考えての試算であったが、地方にも読者が増え目標は程なく達成したという。編集者の一人であった境盛男は、「全道に六千人の読者を数えるまでにファンを獲得した」(注4)と記している。現時点で部数を確かめることは極めて難しい。しかし、前述したように四月以降相次いで雑誌や新聞が創刊されたこと。当時の代表的な雑誌『北の子供』の発行部数が最盛時で一万五千部、ときには六千、八千部であったこと。横田初吉の妻で当時、実務を手伝っていた横田キミが「千部くらいのもだったと思う」と語っていること。以上を考えると千〜二千部の発行だったのではないだろうか。

定価、販売方法 定価は隔号に印刷されている。第二号の欄外に「一ヵ月壹円五拾銭」とあるが、一部の値段が印刷されているのは第十七号がはじめてで「一部参拾銭」とある。B五判に変わってからの第三十三号には、「四頁で月六回発行すること」、「種々の事情で料金も一ヵ月二円十銭、一部三十五銭」に値上げすると告げている。

新聞はともだち社に申し込み、郵送で読者に送られていた。欄外には、郵便局の振替口座番号も印刷されている。第三種郵便の認可は、創刊の二ヵ月後の四月六日であった。また、第十一号、十二号の題字下には、維新堂（南一条西四丁目）でも『ともだち』を扱うという広告が載っていて、一部ずつでも購入できるようになったことがわかる。また、横田キミは「自転車で幾つかの小学校に届けていた」と語っている。学校を通しての取り次ぎも行われていたと考えられよう。

終刊の事情 『ともだち』には、終刊についての記事は全く掲載されていない。従って、読者にとっては唐突だったに違いない。編集者達によると、月六回の発行は執筆や編集に追われ「思っていたより大変な仕事」だったという。「教師の仕事がだんだん忙しくなって」、十分なことができなくなったことが終刊の主な理由のようだ。原稿を書いても「十分推敲する時間もなく」次第に心苦しくなっていたという。また、「ほかにいろいろ子どもの読み物ができてきた」ことも、終刊の理由の一つではないかと横田キミは語っている。

三、編集者

編集に携わっていたのは、四人の青年教師であった。札幌師範の同窓生で、大通小学校に勤務していた鈴木善男、高田英男、伊藤恵、東橋小学校勤務の境盛男である。鈴木善男は当時、横田初吉の子息の担任であった。横田から「何か子ども向けの読み物はできないだろうか」（注5）と相談を受けたという。横田キミによると、横田は「何もなくて子どもたちがかわいそう、何か子どもの読み物ができないか」といつも話していたという。鈴木はさっそく同僚の高田、伊藤と師範時代から児童文化活動を通して交流のあった境にも声をかけ相談、「生活に飢え、文化に乾いた子どもたちに……夢や希望を持たせたい」（注6）と思いついたのが新聞の発行であったという。『ともだち』と命名し、新聞の題字を書いたのは境である。

『ともだち』の用紙の調達、印刷、新聞の発送等の実務は横田が担当。編集は教師たち四人が担当、境が編集長の役割を担っていた。境と鈴木は口演童話を中心に活動していた北海道童話会（のち北海道児童文化会と改称）（注7）の会員で、『ともだち』だけでなく童話雑誌『ひばり』にも童話を書いている。

記事は四人で分担し執筆した。特に担当の分野を決めず誰もがなんでも執筆したが、次第に得意な分野を書くことになったようで、ニュー

又は高田、科学的な記事は伊藤、童話や詩は学生時代から児童文化で活躍していた鈴木、境が多かったようである。挿絵やカット、マンガは、造型教育で活躍していた伊藤によるものが多い。後に伊藤は『北の子供』の工作の頁を担当している。

四、発刊の主旨

戦中はいつも、すべてに我慢を強いられ、そして敗戦に伴う混乱。二学期に「子どもたちと一緒に始めたことは、教科書の墨塗りの授業」(注8)からだったという。そんな子どもたちを前にして、「無性に何かしないではいられない衝動にかられていた」(注9)青年教師達が誕生させた童話新聞。

創刊号の「創刊の辞——うまれでることば」は、次のような呼びかけではじめる。「昭和二十一年、本当にすべてのことが新しい香りのする年ですね。(中略)日本全体が新しく生まれ変わろうとする今年は、いっそうしっかりと毎日を通そうではありませんか。全世界の少女と肩を並べ大手をふって進むうではありませんか。」と。さらに、「子どもたちには「人に頼らないこと」、「人真似をしないこと」、「一人一人が自分を良く見つめこれからの日本を造り上げてほしい」と述べている。そのために『ともだち』が生まれることになったのだと。こうした子どもへの呼びかけや願いは、敗戦後始めての新年を迎える大人達自身の決意であり、反省を込めたメッセージだったのではないだろうか。

五、内容の構成

「童話新聞」という言葉を使っているのは、第三十六号「作品募集」の項だけだが、創刊時に「童話を中心にした新聞にしよう」と考えたという。高田の所蔵していた『ともだち』の表紙には、「教育童話新聞」と書かれてあった。童話をメインにしながらも、教育的な内容を盛り込んだ新聞にしようとの次のように内容を構成した。社のことば、ニュース、学習的な要素を持つ「自習室」、「科学の灯」、しつけや生活習慣に関する「お行儀」、その他、「季節だより」、なぞなど、遊び等の「娯楽室」、「私達の作品」——綴方、詩、俳句等から構成されている。以上をみると教育童話新聞という表現は、この新聞の内容を良く現しているといえよう。

童話、読み物 連載童話「青空少年団」は、一〜十七回で隔号に掲載。子どもたちが作った少年団を舞台に、当時の子どもたちの生活をえがいたもの。作は清川蒼志夫で鈴木善男のペンネームである。挿絵の丸山さとしは伊藤恵のペンネーム。その他、毎号童話を掲載しているが、いわゆる名作の翻案や民話等と創作はほぼ同数である。その他、読み物としては「偉人伝」を十篇掲載している。

第二号からは、低学年のためにカタカナ童話を掲載。終刊までに二十六篇。

社のことは 九回掲載されているうち、第二十、二十一号は「社説」と表示されている。戦後の混乱した社会生活のなかでの、子どもたちの道徳心への訴えが多い。

ニュース 暮らし、学校教育、社会、政治、世界の動きなどが、子ども向けに書かれている。政治では、憲法改正案、象徴天皇、戦争放棄、戦後初の総選挙等。教育ではアメリカの教育使節団の来日、教科書、学用品の配給、学友会の誕生等。暮らしでは学校農園、食糧不足、食糧増産、ペニシリンの生産等。他に復員、引揚者のこと、領土、国際連合のこと等。このニュースを読んでいると、日本国憲法公布までの戦後の動きがよく伝わってくる。

科学の灯 「食物の常識、ビタミンの話」から始まり、印刷、地図、太陽、電球、理科の実験等十五篇。

自習室 第二号「勉強の心構え」から始まり、歩き方、本の読み方、算数の学び方、写生の仕方等、子どもたちの学習ガイドの役割をもつ記事。国語、算数の練習問題などワークの役割を持つ記事からなっている。

お行儀 衛生、姿勢、服装、挨拶、言葉づかい等、いわゆる生活習慣の自立に関する内容で、十回の掲載。

自習室、お行儀の項は、小学校教師の経験が活かされた記事といえよう。

私達の作品 投稿欄で綴方、詩、俳句、短歌等、子どもの応募作品を掲載。作品募集は第二号から数回おこなわれている。掲載作品は綴方十六人、詩三十九人、俳句四十人、短歌十六人、その他の投稿五人である。投稿者の学年も小学校二年生から高校二年生までと幅広いが、そのうち七〜八割は小学校四〜六年生の作品である。札幌の子どもが多いが、釧路、旭川、深川、岩見沢、美唄、苫小牧等からの投稿もみられる。

編集者達によると、作品が掲載されても賞品は出なかったという。しかし、自分の作品が活字になり紙面で紹介されることが嬉しいよう

で、投稿は号を重ねることに増えていったようである。

季節便り 立春と節分等、主に季節と行事に関する記事で十四篇。

その他、ゲームや遊びの紹介、笑話、などなどなどの「娯楽室」、マンガ等も掲載されている。

札幌の児童文化に関するニュースでは、「子供の国」の計画（第十四号）が紹介されている。図書室、動植物園、ホール等を備えた児童文化施設を造り、子どもに文化を贈ろうというもの。財団法人子供の国の計画で、科学新聞「子供の国」も発行していた。

また第三十三号には、児童文芸雑誌『北の子供』第三号の広告が掲載されている。

六、 童話会の開催

地方にも読者が増えていったこともあって、読者サービスとして美唄や石狩等で童話会を開催している。現地の熱心な先生が段取りをつけてくれたのだという。童話の語り手は編集者達であった。学生時代から口演童話を実践してきた境、鈴木、そして口演に慣れない高田、伊藤もみんなが語った。編集者達によると、驚くほどたくさんの子どもたちが集まってきたこと、広い会場で一番遠くの子どもに聞こえるように声を出すのが大変だったこと、子どもたちが本当に良く聞いてくれたことが印象に残っているという。

七、 家庭宗教雑誌『ともだち』

前述した思いがけない発見とは、家庭宗教雑誌『ともだち』のことである。『ともだち』を探索したがみつからず、プランゲ文庫に照会したところ、所蔵号数の記録と一枚のコピーが送られてきた。それが、家庭宗教雑誌『ともだち』第六十七号（昭和二十三年八月一日）である。『ともだち』の題字上に「家庭宗教雑誌」と印刷されていて、発行所は「ともだち社」、「編集兼印刷発行人・横田初吉」とある。しかし、内容から見て子ども雑誌とは思えず謎は解けないままであった。

その後、童話新聞『ともだち』の発見によって、童話新聞終刊後に同名で家庭宗教雑誌『ともだち』が発行されていたことがわかった。題字は童話新聞『ともだち』と全く同じものが使用されている。横田キミによると、曹洞宗円照寺（札幌）の信者に配布されていたもので、

横田の友人で曹洞宗円照寺の当時の住職・樟本成美、童話家として活躍していた塚本長蔵等が執筆していたという。創刊は童話新聞「ともだち」終刊後まもなくで、一九五〇（昭和二十五年）頃まで発行されていたようだが、正確にはわからない。

む す び

戦後初期に北海道で刊行されていた新聞には、次のようなものがあった。『北海道コドモ新聞』（小樽新聞経営株式会社）、『北海道小学新聞』（室蘭）、『子供の国』『コドモノクニ』幼年版（子供の国）等である。しかし、子どもの新聞は、長いこと図書館でも収集・保存の対象にはならなかったため、現在全くみることができない。それだけに「ともだち」が保存されていたこと、記録できたことの意義は大きい。この期の児童雑誌や新聞は、用紙や印刷関係者との仕事が目立つ。「ともだち」も同様に横田印刷所と小学校の教師達の連携で創刊されたものである。戦中と戦後、窮乏生活を強いられた子どもたちにとって、「ともだち」が喜んで迎えられたことは想像に難くない。それだけに、読者に何の知らせもないまま終刊したことが惜しまれる。

本稿では童話新聞「ともだち」の概要を把握できたので、さらに他の新聞等の探索を続け、この期の児童出版物の全容解明に迫りたい。

童話新聞「ともだち」に出会えたのは、ある雑誌の創刊号を探索する過程でのことでした。この思いがけない機会をつくってくださったのが、境盛男氏です。そして一九九二年三月十八日には、「ともだち」の編集をされていた境盛男氏、鈴木善男氏、高田英男氏、伊藤恵氏にお集まりいただき、当時のお話を聞かせていただくことができました。こうしたことが一つのきっかけとなって、「子ども新聞」「ともだち」復刻版（一九九二年十二月）が出されたことを嬉しく思います。様々な形で資料を提供してくださりましたことに感謝の意を表します。

また、横田キミ氏他多くの方にご協力をいただきました。記してお礼申し上げます。なお、本文中の敬称は、省略させていただきました。

注

(注1) 児童文芸雑誌「北の子供」は一九四六年四月創刊、一九五〇年一月まで続いた。全三十八冊で日本文化協会の発行。地域に根ざした児童文化活動を展開しながら発行されていた。

童話雑誌「おはなし」は、一九四六年四月創刊、終刊不明。自由建設発行。

童話雑誌「ひばり」も、一九四六年四月創刊といわれているが、創刊号が確認できないので正確にはわからない。九号まで確認できたが終刊は不明。北日本社の発行。

科学新聞「子供の国」一九四六年五月創刊、終刊不明。「コドモノクニ」幼年判も発行されていた。発行期間は不明。財団法人子供の国発行。

(注2) 谷暎子「児童文芸雑誌「北の子供」解題(一)と細目」北星学園女子短期大学紀要第二十七号 一九九一年

谷暎子「児童文芸雑誌「北の子供」解題(二)北星学園女子短期大学紀要第二十八号 一九九二年

(注3) 米国メリーランド州メリーランド大学マッケルデン図書館にあるプランゲコレクションのこと。GHQは、一九四五年秋～一九四九年秋まで検閲を実施していた。プランゲ文庫には、検閲時の出版物が所蔵されており日本戦後史資料の宝庫といわれている。

(注4) 境盛男「一筋の光を」『子ども新聞「ともだち」復刻版』非売品 一九九二年 二頁

(注5) 同右 鈴木善男「若き教師たちの夢」 四頁

(注6) 同右 高田英男「ともだち新聞発刊の頃」 五頁

(注7) 小学校教師で口演童話家だった三浦一が会長。会員には小学校の教師が多く、主に口演童話の実践と研究をしていた。一九四七年に北海道児童文化会と改称、口演童話のほか紙芝居、人形劇、影絵等にも取り組んだ。

(注8) 『子ども新聞「ともだち」復刻版』鈴木善男「若き教師たちの夢」 三頁

(注9) 同右 高田英男「ともだち新聞発刊の頃」 五頁

参考文献

これの樹会編『北海道の児童文学』北海道新聞社 一九七九年

講談社編「廃墟からの出発 昭和20年・21年」『昭和 第七巻』講談社 一九八九年

日本児童文学者協会編「復興期の思想と文学」借成社 一九七九年

二、童話新聞『ともだち』細目

戦後間もなく出版された児童出版物は、地元の図書館等にも所蔵されていないことが多い。特に新聞は皆無なので、原資料を見ることが極めて難しい。従って、史的な意味を持つ児童出版物の細目を作成し公表することは、児童文化史研究を進める上で大きな意味を持つ。

細目は新聞の一頁ずつを丁寧にあたり、そこに記載された表題をもれなく記録したもので、新聞の性格などを実証する上で有効な資料となる。

この細目は、高田英男氏が所蔵されていた『ともだち』三十七部を、コピーさせていただき作成することができた。ここに感謝の意を表す。

細目・凡例

- 一、本細目は『ともだち』各号に掲載された記事の表題を、頁を追って記載したものである。
- 一、記載にあたっては、本文の表題をそのまま記載した。また、内容を示す“童話”などの表記も記載した。
- 一、記載にあたっては各表題ごとに改行することを原則とした。しかし、改行しない場合は、各表題間に○印を入れた。
- 一、著者名は表題の後に記載したが、肩書きは省略した。
- 一、読者の投稿については、表題、氏名とも割愛した。
- 一、挿図、写真は原則として省略したが、本文の内容を理解するうえで必要な場合は記載した。
- 一、漢字については、著者名、固有名詞を除いて新字体に改めた。
- 一、注記、補記は「」内に記した。

第1号(創刊号) 一九四六(昭和21)年二月一日

二月の暦

題字下

御ねがい

算数○なぜなぜなあに?○順くるわせ

創刊の辞 うまれでることば

連載童話(1) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

「胸に刻まん」 かしこくも詔書を賜わる

国民学校から大学まで 学校農園で昼食補給

北海道の特作物 食料輸入に見返り物資

原子爆弾の制作費

米国へ渡る戦争画

進駐軍が除雪へ率先

偉人伝「孝行の手本」二宮金次郎

童話 雪の夜

詩 二月〇踏切番

俳句(三首)

笑話(二話)

美談 太田先生から聞いた話

「漫画」和ちゃん日記

第2号

一九四六(昭和21)年二月六日

科学の灯 食物の常識 ビタミンの話(その1)

カタカナドウワ 人ニナッタオニ

学校便り 英語の勉強をする国民学校〇平和の誓い、広く明るく

お行儀 冬の衛生〇お風呂

季節便り 立春と節分

自習室 勉強の心構え〇ブラキストン線と八田線

私達の作品 綴方(2篇) 詩(1篇)

娯楽室 早口言葉〇荷物送り競争〇生まれ月と年齢をあてる

第3号

一九四六(昭和21)年二月十一日

二月の暦

総選挙 女子も加わる政治

工夫する力

ラジオ受信機を三万台製造

アメリカから教育使節団

復員の方々を真心こめて温かく迎える函館市の準備

連載童話(2) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

輝く文化勲章

偉人伝 アメリカ建国の父「ワシントン」

詩 雪の夜

揭示板 地球〇物の数の呼び方

美談 少年の危険信号

童話 澄夫さんとマリ

笑話 物識り同志

「漫画」和ちゃん日記

第4号

一九四六(昭和21)年二月十六日

科学の灯 食物の常識 ビタミンの話(その2)

食物の常識 カロリーの話

カタカナ童話 モラッタミカン

「児童文章」(1篇)

季節便り さようなら北風さん

お行儀 姿勢を正しく

自習室 米人クランク先生

題字下

勉強 綴り方の鑑賞

私達の作品 綴方(2篇) 詩(1篇)

娯楽室 縄跳遊び○二人三脚鬼遊び○豚のシッポ

○なぞなぞなあに○数あて

御ねがい

第5号 一九四六(昭和21)年二月二十一日

御製

世界の常会 国際連合

インフレを壊る為に 新円を発行引き替へ

木材科学研究所

社のごとば 民主主義

中等学校の入学考査 戦災・引揚げ者には特別扱い

四月中に国勢調査

季節だより 空気と日光を浴びよう

連載童話(3) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

自習室 正しい歩き方○算数○国語

「七十年前の北海道」 おおかみと戦う馬

カタカナドウワ オサルノモンチャン

娯楽室 百面相○なぞなぞなあに○猫と鼠

お願い

第6号 一九四六(昭和21)年二月二十六日

御製

日本の新領土

世界の子供となるための新補助教材

三月一日から鉄道料金の値上げ 旅客は二倍半に!

尺貫法を全廃

童話 先生と鳩

詩 春を待つ

「児童俳句」(2首)

お行儀 御飯のいただき方

科学の灯 大切な塩の話

私達の作品 綴方(2篇) 詩(1篇) 俳句(8首)

「漫画」和ちゃん日記

笑話 長いわけ○良い時計○眠った顔

掲示板 お難様の飾り方

第7号 一九四六(昭和21)年三月一日

御製

天皇陛下の御仁慈 神奈川県に行幸 民情を御見聞

全国都市の九番目 札幌市二十二万三千九人

大航空路 東京ロンドン

社の言葉 反省する心

連載童話(4) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

季節だより おひな祭り

美談 十五年の道路なおし

科学の灯 新聞や雑誌を生み出す 印刷の話

私達の作品 綴方(1篇) 詩(1篇) 俳句(5首) 短歌(3首)

掲示板 秘訣二つ

「漫画」和ちゃん日記

第8号 一九四六(昭和21)年三月六日

御製

鮮、満、樺の邦人引揚げにマ元帥の思いやり

五年制に戻る中等学校

鈴木 健介

1

1

1

1

2

2

2

2

題字下

1

1

1

1

1

1

2

2

2

2

題字下

1

1

学友会の誕生 札幌市中央創成校に

北海道にひろまる発疹チフス、天然痘

原子爆弾実験の準備

童話 綴方の時間

詩 春の声

お行儀 服装

自習室 本の読み方○国語○算数○北海道の移住民

カタカナドウワ タンポポサン

娯楽室 真夜中○笑話 ふとん、雪○なぞなぞなあに

社から皆さんへ

第10号

一九四六(昭和21)年三月十六日

金言(ベスタロッチ)

米国の使節団訪日 新日本建設の教育を造るため!

世界最初の原子爆撃隊

これからの貿易 米国のみに限定○輸出奨励品決定

北海道に(来た 来る)米と麦の調べ

詩 すべりだい

童話 体操

「児童俳句」(1首)

「広告」

自習室 入学試験をうける心得

科学ニュース 風力発電

詩 希望

言葉のかぎ 水晶のお土産

カタカナドウワ 月ノセカイニ行ッタウサギ

お行儀 遊びとお手伝い

娯楽室 誰でしょう○めぐら探し

「児童俳句」(1首)

題字下

第9号

一九四六(昭和21)年三月十一日

金言(トーマスエジソン)

天皇陛下都下を御巡行 孤児や農民に温かいお言葉

総選挙4月10日に延期

社のことば こはんにおじぎ

詩 「豆せんしゅ

戦車や装甲車の改造を許可

高等学校は三年制 中等学校は五年制

連載童話(5) 宵空少年団 清川啓志夫 丸山さとし(画)

季節だより 春分

掲示板、動物の寿命

科学の灯 山の不思議三つ

御ねがい

私達の作品 綴方(1篇)詩(3篇)しりとり歌(1篇)

俳句(8首)和歌(2首)

英語の歌を證々寺の節で歌いましょう

「漫画」和ちゃん日記

第11号

一九四六(昭和21)年三月二十一日

「広告」

国の前途を決める選挙 投票日を休日

都市の人口異動禁止

社のことば 道義日本

詩 春も間近く

憲法改正案 天皇は国家の象徴 戦争は永久にしない

赤ちゃんにも種痘 ホーソーをふせぐ為

綿花二十万俵 日本へ輸出

「児童俳句」(1首)

自習室 入学試験をうける心得

科学ニュース 風力発電

詩 希望

言葉のかぎ 水晶のお土産

カタカナドウワ 月ノセカイニ行ッタウサギ

お行儀 遊びとお手伝い

娯楽室 誰でしょう○めぐら探し

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

「児童俳句」(1首)

題字下

季節日より 四月中の行事

お行儀 整頓

自習室 読方の予習の仕方○電磁石の話

カタカナドウワ 四ロウマルノシッポ

私達の作品 詩(2篇)

娯楽室 動物当て○狐と鶏○首すもう○笑話 しんるい

第12号

一九四六(昭和21)年三月二十六日

〔広告〕

これからの学校 マ司令部の調査

人口調査、四月二十六日に延期

総選挙日の四月十日、学校は休日

米国教育使節団長のお話 日本の教育は日本人の力で

世界名作童話 ジャックと豆の梯子〔連載の1〕

掲示板 発明しらべ

社から皆さんへ

〔広告〕

科学の灯 地図の出来るまで

詩 近づく春

〔私達の作品〕俳句(10首)綴方(1篇)

〔漫画〕和ちゃん日記

第13号

一九四六(昭和21)年四月一日

金言(カント)

四月十日は総選挙

ソ連の五カ年計画

時計台の鐘

藤田 喜一

1

肺炎を救うベニシリンの道産

1

題字下

第15号

一九四六(昭和21)年四月十一日

金言(徳川光圀)

教材を広く募集 国語教科書

肺炎を救うベニシリンの道産

1

題字下

戦死者の貯金通帳 おうちの人に引渡し

連載童話(6) 青空少年団 清川啓志夫 丸山さとし(画)

掲示板 天気の言葉

科学の灯 美しい眼(その1) 野崎 幸夫

私達の作品 綴方(1篇)和歌(2首)詩(4篇)

美談 一家をささえる六年生の明子さん

季節日より 花祭り

〔漫画〕ポチャンノ研究1

糸 佐都子

2

題字下

第14号

一九四六(昭和21)年四月六日

新しい憲法案 特別議会で審議

通信料金も値上り

私達の「子どもの国」札幌でうれしい計画

世界名作童話 ジャックと豆の梯子〔連載の2〕

春のおとずれ

お行儀 ごあいさつ

お知らせ

自習室 理科の常識 電燈の故障

ローマ字のお勉強○国語○算数

カタカナドウワ オ人形サン

娯楽室 ひげつり○知恵くらべ○子供の川柳

○笑話 兄さん それだけは○西洋鬼

2

題字下

汽車を大事に 移動警察官

うれしい学用品の配給

詩 にしん

連載童話(7) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

米の産額

科学の灯 面白い理科のじっけん

私たちの作品 綴方(1篇) 和歌(2首) 俳句(4首)

詩(2篇)

イネムリキタカゼ [カタカナドウワ]

笑話 となり

美談 正直少女の青物売り

〔漫画〕 ポチヤンノ研究?

糸 佐都子

第16号

一九四六(昭和21)年四月十六日

金言(トルストイ)

北海道から当選した道民代表の新代議士

北海道を救うアメリカの米

道路の清掃

童話 星のお金

ブランコ〔詩〕

詩 つかまえないな

季節だより 馬鈴薯を植えましょう

〔児童俳句〕(2首)

自習室 学校放送 地理のつかみ方○国語○算数

北海道のひらきはじめ

カタカナドウワ オジサントポチ

娯楽室 などなど 笑話 食べない

良い所○回文○腕組鬼ごっこ

第17号

一九四六(昭和21)年四月二十一日

金言

日本国憲法改正案 平坂名で口語体

国際聯盟解散

身も心も楽しく新しいラジオ体操

「靖国神社」春の大祭

詩 花開く

偉人伝 汽車の発明者

米大統領 日本を訪問か

連載童話(8) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

科学の灯 美しい眼(その2)

私たちの作品 綴方(1篇) 俳句(5首) 詩(1篇)

仲良し教室〔編集者への手紙〕

お行儀 言葉づかい

季節だより さくらの頃

〔漫画〕 ポチヤンノ研究?

糸 佐都子

第18号

一九四六(昭和21)年四月二十六日

金言(アンデルセン)

生きた勉強「公民科」

臨時議会を召集 五月十三日頃

町村文化の中心公民館

ちえの泉 私たちと自然

童話 山彦(その1)

詩 妹

掲示板 速度

お行儀 大切な時間

題字下

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

自習室 算数の学び方

〔童話〕 駒鳥の胸

カタカナドウワ オヤゲマ

イロイロナ問題

娯楽室 お笑い三題 犬 つぼ すずめ○しりとりにしん

お願い

ラーゲルレーフ

社説 責任

童話 山彦(その二)

詩 土の香り

五月のともだち暦

〔児童作品〕詩(一篇)

掲示板 鼠一坪と種子○笑話 くんしょう

自習室 写生をしましょう

尾のない狐

いろいろな勉強

カタカナドウワ ソラノオソウダン

娯楽室 ものまね○ふくろの眼○金の引揚げ○ちえだめし

金言

鈴木 健介

イソップより

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

2

第19号 一九四六(昭和21)年五月一日

金言(老子)

今年の食糧増産 札幌気象台の天気予報

発疹チフス予防に 空からDDT

尾吉物語 こむらさき

詩 おはなし

連載童話(9) 青空少年団

カタカナドウワ ルミ子チャン

科学の灯 美しい眼(その3)

お行儀 ホコリ風とうがい

私たちの作品 綴方(一篇)詩(5篇)

学校だより

笑話 名答 いわれた通り けちんぼう 質問

季節だより 八十八夜

〔漫画〕にこにこ筆ちゃん第1

満賀 北一

一九四六(昭和21)年五月六日

第20号

金言

常に使う漢字 千二百九十五字に制限

電熱温床で栽培 サツマイモの増収

仲々よく出来た総選挙 マッカーサー元帥声明

題字下

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

第21号 一九四六(昭和21)年五月十一日

金言

安いペニシリン 旭川厚生病院の研究

見返り品増産運動 青少年団に呼びかけ

社説 「心がけ」の不足

連載童話(10) 青空少年団 清川蒼志夫

丸山さとし(画)

食べられる野草のちしき

科学の灯 太陽

私たちの作品 綴方(一篇)俳句(3首)和歌(3首)

詩(3篇)

カタカナドウワ ヒツジカイトオオカミ

〔漫画〕にこにこ筆ちゃん

お願い

満賀 北一

一九四六(昭和21)年五月十六日

第22号

金言

電熱温床で栽培 サツマイモの増収

仲々よく出来た総選挙 マッカーサー元帥声明

満賀 北一

一九四六(昭和21)年五月十六日

第22号

金言

電熱温床で栽培 サツマイモの増収

金言(ソクラテス)

題字下

第24号

一九四六(昭和21)年五月二十六日

食料を節約して 世界を救う米国民

金言

題字下

ラジオの村、喜茂別

邦人の引揚げ順調 二百八十二隻が活躍

1

A級戦争犯罪人 東条元大将ら二十八名

進駐車の文化住宅街 真駒内と千歳

1

食べられる野草の知識

電熱速成堆肥

1

童話 翼

ソログループより

「詩」 春を惜しむ

1

季節だより つばめ

童話 二人の兄弟と黄金

トルストイ童話集より

1

自習室 線の引き方 円の書き方(1) ○綴方の勉強

「詩」 ならみっこ

1

人類の起源(その一)

世界の三大宗教

1

カタカナドウワ チュウキチサンノオハナシ

自習室 線の引き方 円の書き方(2)

2

娯楽室 まりつきうた○ちえだめし

人類の起源 (その二)

2

詩 燕

娯楽室 顔色七色○終点○二寸ぼうし○新しいタースケ

2

第23号

一九四六(昭和21)年五月二十一日

金言

題字下

六人の共同一致で 学校の火事を防ぐ

前号のちえだめしの答

2

虱 蚊 蚤を退治

詩 ポプラのこずえ

2

ルウブル美術館再開

娯楽室 津波の話

2

加州米の配給

第25号 一九四六(昭和21)年六月一日

題字下

社のことば 足もと行く先

金言

1

連載童話(11) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

五月二十二日に親任式 吉田内閣成立す

1

詩 風 お前は何さ

女子医専が医大に

1

掲示板 色

世界の珍鳥

1

科学の灯 蟻

デモとさわぎに マ元帥から注意

1

私たちの作品 綴方(1篇) 詩(3篇) 俳句(3首)

連載童話(12) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

1

昆吉物語 蟻ぢごく

藤島 有平

社のことば 美しい言葉

1

笑話 質問

掲示板 海の水

1

「漫画」にこにこ筆ちゃん3

満賀 北一

詩 六月

1

科学の灯 電球の話

私たちの作品 詩(5篇) 和歌(4首)

季節だより 野草がりの六月

カタカナドウワ オサルトカガミ

笑話

〔漫画〕 ポチャンノ研究 4

糸 佐都子

第26号

一九四六(昭和21)年六月六日

金言

新しい自習法で進む 遠軽校のお友だち

北海道の総人口 約三百五十万人

七千三百万の人口(日本の総人口)

偉人伝 ジョージウエスチングハウス

童話 先生のお家

自習室 新しい勉強

大空に描く曲線の美〔写真〕

おはようのあいさつ

活動画○面白い(いろは歌)

わらと炭とそらまめ

カタカナドウワ サブチャントポチ

第27号

一九四六(昭和21)年六月十一日

金言

厚生省を分けて 労働省と社会保健省

本道の食料に長官成功のお知らせ

新しい殺虫剤 DFD T

日本占領軍兵力は十九万

社のことば 赤い石

連載童話(13) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

揭示板 飲料水

詩 野草がり

笑話 うそつき

科学の灯 不思議物語 見えない光

私たちの作品 綴方(2篇)詩(2篇)俳句(10首)

カタカナオタヨリ セカイノタビ

社からみなさんへ

〔漫画〕 ポチャンノ研究 5

糸 佐都子

第28号

一九四六(昭和21)年六月十六日

金言

道民の上に深い大御心 天皇陛下、長官に御可問

天皇陛下、肥料の御研究

偉人伝 種痘の発明者ジエンナー

童話 狼と狐の知恵

季節だより 夏至〔図版〕

自習室 うその金かんむり

新しいお勉強

カタカナドウワ ポウヤノユメ

お行儀 ひき出しそうじ

娯楽室 野球のことば○影ふみ鬼

特報 九月迄食糧をつなぐ

第29号

一九四六(昭和21)年六月二十一日

金言

日本の食料生産 米國農務省の見込み

題字下

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

1

カタカナドウワ ワシハ イワナイ 15

偉人伝 英国の生んだ大政治家 グラッドストーン 16

笑話 草とり 十円札 直角 16

五頁「なぜなぜ」の答 16

第33号 一九四六(昭和21)年九月一日

金言(ジャンポール) 題字下

童話 王様の試験 廣田飛出雄 1~2

時の動き とり入れ 1

盆おどり 2

科学の灯 昔の火 伊藤三十四 3

海洋性気候 3

私たちの作品 綴方(1篇) 詩(2篇) 和歌(4首) 3

俳句(2首) 4

社から皆さんへ 4

第34号 一九四六(昭和21)年九月六日

金言(エジソン) 題字下

偉人伝 ヴィクトリヤ女王とウエリントン卿 1

季節だより 二百十日 1

連載童話(15) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画) 2

掲示板 海水の温度 2

オハナシ シカト三人ノカリウド 3

詩 九月 3

スポーツ 少年野球大会戦績 3

娯楽室 数字の不思議○帽子取り○笑話 不精者 面会謝絶 4

〔漫画〕 ポチャンノ研究8 糸 佐都子 4

第35号 一九四六(昭和21)年九月十一日

金言(テニスン) 題字下

童話 フロレンスの少年筆耕 クオレによる1~2

時の動き 戦争のない世の中 1

牧場の牛「写真」 2

科学の灯 空気の目方(一) 伊藤 恵 3

掲示板 科学と化学 3

娯楽室 面白い算数○首相撲○笑話二題 猫 習慣○なぜなぜ 4

〔漫画〕 ポチャンノ研究9 糸 佐都子 4

第36号 一九四六(昭和21)年九月十六日

金言(テニスン) 題字下

連載童話(16) 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画) 1

童話の父 アンデルセン 2

詩 夜のお空 2

カタカナドウワ オバアチャン 3

童話新聞ともだち作品募集 3

季節だより お彼岸 3

私たちの作品 綴方(2篇) 和歌(1首) 俳句(4首) 3

前号「なぜなぜ」の答 詩(3篇) 4

第37号 一九四六(昭和21)年九月二十一日

金言(スタテウス) 題字下

童話 子供の本屋さん 廣田飛出雄 1~2

時の動き 秋を見つめる 1

秋の陽ざし 2

科学の灯 空気の目方(二) 伊藤 恵 3

娯楽室 ものまね○すむとにぐるのちがい

○笑話 ファーボール 名答

偉大なる発明家 トーマスエヂソン

4 4

第38号

一九四六(昭和21)年九月二十六日

金言(ハズリット)

題字下

連載童話19「17」 青空少年団 清川蒼志夫 丸山さとし(画)

1

偉人伝 楽聖ベートーベン

2

季節だより 秋のたび

2

自習室 俳句のものがたり(1)

佐々木 亮

3

体操の仕方

3

カタカナドウワ サルノチエ

4

学校だより 自治会

4

詩 お月さん

4

「児童詩」(1篇)

4